

2008 年度 工学部デザイン学科 授業科目一覧表

授業コード	授業科目名	単位数	開講時限等	担当教員	頁
T1P001001	デザイン学セミナー	2.0	1 年後期水曜 1 限	各教員	デザ 2
T1P002001	図学演習	2.0	1 年前期月曜 3 限	渡邊 誠他	デザ 2
T1P003001	統合デザイン実習 I	2.0	1 年前期月曜 4,5 限	青木 弘行他	デザ 3
T1P004001	デザイン造形実習 I	2.0	1 年前期水曜 4,5 限	玉垣 庸一他	デザ 3
T1P005001	デザイン論 I	2.0	1 年前期火曜 3 限	植田 憲他	デザ 4
T1P006001	デザイン造形実習 II	2.0	1 年後期火曜 4,5 限	田内 隆利他	デザ 5
T1P007001	統合デザイン実習 II	2.0	1 年後期月曜 4,5 限	渡邊 誠他	デザ 6
T1P008001	統合デザイン実習 III	2.0	1 年後期金曜 4,5 限	渡邊 誠他	デザ 7
T1P009001	デザイン論 II	2.0	1 年後期火曜 2 限	釜池 光夫他	デザ 7
T1P010001	デザイン科学 I	2.0	1 年後期水曜 3 限	青木 弘行他	デザ 8
T1Y016006	造形演習	2.0	1 年前期火曜 5 限	田内 隆利	デザ 9
T1Y016004	造形演習	2.0	1 年前期火曜 5 限	福川 裕一	デザ 10
T1Y016001	造形演習	2.0	1 年前期火曜 5 限	植田 憲	デザ 10
T1Y016005	造形演習	2.0	1 年前期火曜 5 限	UEDA EDILSON SHINDI	デザ 11
T1Y016003	造形演習	2.0	1 年前期火曜 5 限	玉垣 庸一	デザ 12

T1P001001

授業科目名：デザイン学セミナー
 科目英訳名：Seminar: Introduction to Design
 担当教員：各教員
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：1 年後期水曜 1 限
 授業コード：T1P001001
 講義室：工 2 号棟 102 教室

科目区分

2008 年入学生：専門基礎必修 E10 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義・演習

[受講対象] デザイン学科 1 年生

[目的・目標] セミナー形式の授業を通じて各教員の教育研究内容に触れることにより、デザイン領域での研究、実践に対する基本的理解を深めて行くとともに、少人数セミナーであることを活かし、学生と教員のコミュニケーションの基盤を形成することを目標とする。

[授業計画・授業内容] 各教員は配分されたグループ(3～4名の学生)を全期間にわたって受け持ち、セミナー形式の授業を行う。全体のプロデューサー役は学年担任が務める。授業形態は、各教員が定めた課題についての実験、実習、調査ならびに考察、結果のまとめ・日々の生活体験や市場調査、現地調査にもとづく問題の発掘、ならびに解決に向けたデザイン提案・工場、施設などの見学を通じ、デザイン現場における生産、技術についてレポートなど、教員により様々な展開が考えられるが、その目指す方向は同じである。すなわち受講生は、デザイン工学科意匠系における勉学の方式や態度、問題意識や関心の持ち方などについて、きめ細かい教育、指導のもと、教員と一体となって思考し、今後の学生生活の展望を得るよう努めなければならない。各グループ単位での少人数授業が原則であるが、グループどうしが合流した全体討論や見学会など、担当教員が所属する分野単位での授業形態が適宜取り入れられることもある。また、授業形態によっては時間割外の時間に行うことがある。

[評価方法・基準] 課題、レポートおよび討論により成績評価を行う。

[履修要件] 必修

[備考] 第一回目の授業でグループを決定する。第二回目以降の授業時間帯については、担当教員と受講生で相談の上、その都度決定する。

T1P002001

授業科目名：図学演習
 科目英訳名：Descriptive Geometry (Lec & Lab)
 担当教員：渡邊 誠, 田内 隆利, 小野 健太, 八馬 智
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：1 年前期月曜 3 限
 授業コード：T1P002001
 講義室：工 2-アトリエ (2-601)

科目区分

2008 年入学生：専門基礎必修 E10 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義・実習

[受入人数] 70 人

[受講対象] デザイン学科 1 年生

[授業概要] 形態の理解・表現・伝達を行うための基礎的図法を、理論と実践を通じて学ぶ。具体的には、投影法の習得、副投影・切断・相貫による図形解析、JIS 規格に基づく機械製図、透視図法による立体物の作図、実製品の形態解釈を行う。なお、本授業は統合デザイン実習 I と連携して進める。

[目的・目標] 形態の表示手法の基礎技術を習得しながら、形態を探索するために必要となる立体把握の能力を養う。

[授業計画・授業内容]

1. 投影法の基礎
2. 副投影・切断・相貫による立体の図形解析
3. JIS 規格に基づく機械製図
4. 二点透視図法
5. 実製品の形の成り立ち

[キーワード] 第 3 角法, JIS 製図法, 透視図法

[教科書・参考書] 別途指示

[評価方法・基準] 課題提出、出席回数

[関連科目] 統合デザイン実習 I (p. デザ 3 T1P003001)

[履修要件] 必修

T1P003001

授業科目名：統合デザイン実習 I
 科目英訳名：Integrated Design Practice I
 担当教員：青木 弘行, 岩永 光一, 寺内 文雄, 下村 義弘, 小野 健太, 八馬 智
 単位数：2.0 単位 開講時限等：1 年前期月曜 4,5 限
 授業コード：T1P003001, T1P003002 講義室：工 2-アトリエ (2-601)

科目区分

2008 年入学生：専門必修 F10 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義・実習

[受入人数] 70 人

[受講対象] デザイン学科 1 年生

[授業概要] 人工物デザインの基盤には、科学的理解と実践的理解が求められる。実際の製品の成り立ちやそれを使う人間についての科学的方法に関する講義、および、形態を思考・伝達するための実践的な表示方法についての実習を行う。なお、本授業は図学演習と連携して進める。

[目的・目標] ものや人に対する観察と描画を通じて、デザイン行為に必要な思考技術と表示技術の基礎を習得する。

[授業計画・授業内容]

1. ものの成り立ち (材料)
2. ものの成り立ち (加工)
3. ものと人の関係 (人間工学)
4. 人の大きさとプロポーション (人体計測)
5. 人の動きと構造 (筋電測定)
6. 基本図形の描画
7. 色鉛筆による質感表現
8. ラインドローイングによる形態把握
9. マーカーによる立体表現
10. キャプションと人物による情報伝達

[キーワード] デザイン, 表示, 表現

[教科書・参考書] 別途指示

[評価方法・基準] 課題提出、出席回数

[関連科目] 図学演習 (p. デザ 2 T1P002001)

[履修要件] 必修

T1P004001

授業科目名：デザイン造形実習 I
 科目英訳名：Practicum in design fundamentals I
 担当教員：玉垣 庸一, 桐谷 佳恵, 田内 隆利, (清原 明生)
 単位数：2.0 単位 開講時限等：1 年前期水曜 4,5 限
 授業コード：T1P004001, T1P004002 講義室：工 2 - 工房, 工 2-アトリエ (2-601), 工
 2 - 工房, 工 2-アトリエ (2-601)

科目区分

2008 年入学生：専門必修 F10 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 実習

[受入人数] 70 人

[受講対象] デザイン学科 1 年生

[授業概要] 色彩構成やデッサンの実習を通してデザインの基礎能力を身につける

[目的・目標] 色彩の理解、色彩表現力、描写力、平面構成力の基礎を身につけることを目的とする。

[授業計画・授業内容]

1. 明度差の習作
2. 明度のグラデーションの習作
3. 彩度のグラデーションの習作
4. 色相環の習作
5. 前 4 課題の総括
6. モノクロームとカラーの習作
7. 色彩統一性の習作
8. 同上
9. 色彩の研究と再構成
10. 同上
11. 静物デッサン
12. 同上
13. 構成デッサン
14. 同上
15. 講評

[キーワード] デッサン、色、形

[教科書・参考書] デザイナーとアーティストのために色彩教室「COLOR WORKSHOP」発行：BNN 新社

[評価方法・基準] 各課題の期限内提出の有無及び課題目的への達成度。出席 4/5 以上が条件。

[履修要件] 必修

[備考] 「デザイン造形実習�」と「デザイン造形実習�」を併せて平成 16 年度までに開講されていた「基礎造形演習」の読み替え科目になる。

T1P005001

授業科目名：デザイン論 I

科目英訳名：Theory of design I

担当教員：植田 憲, 樋口 孝之

単位数：2.0 単位

開講時限等：1 年前期火曜 3 限

授業コード：T1P005001

講義室：工 2 号棟 201 教室

科目区分

2008 年入学生：専門必修 F10 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 70 人

[受講対象] デザイン学科 1 年生

[授業概要] デザイン工学科意匠系におけるデザイン教育の視点、デザインの役割、我が国のデザインの特徴、近代デザインの歴史等について論述する。

[目的・目標] デザインの社会的使命、目的、デザインにおける用と美、伝統工芸、循環型社会のデザイン、デザインの歴史等について理解することを目的とする。

[授業計画・授業内容]

1. デザインを学ぶということ、デザイン工学科の歩み
2. 用と美、その統合としてのデザイン
3. 時間・空間のデザイン / 日本の美の普遍性
4. 伝統的工芸とデザイン / 日本のアイデンティティ
5. 循環型社会のデザイン

6. デザインと地域政策
7. 文化としてのデザイン
8. デザインの歴史を学ぶということ
9. 機械化時代の到来と生活の芸術化
10. グラスゴー派、Art Nouveau、ユークントシュティル、ウィーン分離派
11. ベーレンスと AEG、D.W.B. (工業化と規格化)
12. Bauhaus I
13. Bauhaus II
14. 日本におけるデザインの歴史
15. 最終試験

[キーワード] デザイン, 用と美, 伝統工芸, 循環型社会, デザイン史

[教科書・参考書] 授業開始時に指示する

[評価方法・基準] 出席 (毎回出席をチェックする): 30 %、レポート課題: 30 %、試験: 40 %

[関連科目] デザイン論 II、デザイン科学 I、デザイン科学 II

[履修要件] 必修

[備考] 平成 16 年度まで開講されていた「デザインの歴史」の読み替え科目である。

T1P006001

授業科目名: デザイン造形実習 II

科目英訳名: Practicum in design fundamentals II

担当教員: 田内 隆利, 原 寛道

単位数: 2.0 単位

開講時限等: 1 年後期火曜 4,5 限

授業コード: T1P006001, T1P006002

講義室: 工 2 - 工房, 工 2-アトリエ (2-601), 工
2 - 工房, 工 2-アトリエ (2-601)

科目区分

2008 年入学生: 専門必修 F10 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 実習

[受入人数] 70 人

[受講対象] デザイン工学科意匠系 1 年生

[授業概要] 基礎的な立体構成のエクササイズを多数行いながらステップアップし、形の見方を習得する。また、前期に行った石膏デッサンのモチーフである石膏像を粘土で模刻し、立体を把握するための訓練をする。

[目的・目標] 立体造形の構成要素は、「面」「量」「空間」であり、その構造は「幅」「奥行き」「高さ」からなる。この実習ではそれらを順を追って説明し課題を制作することによって「形の成り立ち」を見る力を養い、立体造形に関わる基礎的な造形力を身につけることを目的とする。

[授業計画・授業内容]

1. 授業の説明、立体構成についての講義
2. 第 1 課題: 3 つの直方体による構成
3. 講評
4. 第 2 課題: 多数の直方体による構成
5. 同上
6. 第 3 課題: 平面図面を元にした立体構成
7. 同上
8. 第 2、第 3 課題講評
9. 第 4 課題: 石膏像模刻
10. 同上
11. 同上
12. 同上

13. 同上
14. 同上
15. 講評

[キーワード] モデリング、立体構成

[教科書・参考書] ゲイル・グリート・ハナ(著)、今竹翠(翻訳、監修): エレメンツ・オブ・デザイン, 美術出版社
2006 年

[評価方法・基準] 課題提出の有無及び課題目的への達成度、出席日数

[履修要件] 必修

[備考] 「デザイン造形実習Ⅰ」と「デザイン造形実習Ⅱ」を併せて平成16年度まで開講されていた「基礎造形演習」の読み替え科目になる。

T1P007001

授業科目名: 統合デザイン実習Ⅱ

科目英訳名: Integrated Design Practice II

担当教員: 渡邊 誠, 小野 健太, 八馬 智, 玉垣 庸一, 小原 康裕, 佐藤 公信, 原 寛道

単位数: 2.0 単位

開講時限等: 1 年後期月曜 4,5 限

授業コード: T1P007001, T1P007002

講義室: 工 2-アトリエ (2-601)

科目区分

2008 年入学生: 専門必修 F10 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義・実習

[受入人数] 70 人

[受講対象] デザイン学科 1 年生

[授業概要] 生活の中にある工業製品を対象に、デザインに関する一連のプロセスを体験する。まず、具体的な製品のデザインを行い、その製品と人を結びつけるためのグラフィックのデザインを行い、その製品を引き立てる空間のデザインを行う。最終的にそれらを統合したプレゼンテーションを行う。なお、本授業は統合デザイン実習Ⅱと連携して進める。

[目的・目標] 工業製品を取り巻く基本的な知識、メディアや空間の果たす役割、表示手法に関する基礎的能力などを習得しながら、自ら問題を見つけて解決するための想像力と創造力を高める。

[授業計画・授業内容]

1. 製品コンセプトの構築
2. デザインアイデア展開
3. デザインチューニング
4. 図面制作
5. ロゴマークデザイン
6. 製品レンダリング
7. 広告物デザイン
8. 広告物デザイン
9. 空間配置計画
10. 展示空間デザイン
11. 模型・パース制作
12. 図面制作
13. プレゼンテーション資料・モックアップ制作
14. チュートリアル
15. 最終プレゼンテーション

[キーワード] 製品デザイン, グラフィックデザイン, 空間デザイン

[教科書・参考書] 別途指示

[評価方法・基準] 課題提出、出席回数

[関連科目] 統合デザイン実習Ⅲ(p. デザ 7 T1P008001)

[履修要件] 必修

T1P008001

授業科目名： 統合デザイン実習 III
 科目英訳名： Integrated Design Practice III
 担当教員： 渡邊 誠, 小野 健太, 八馬 智, 玉垣 庸一, 小原 康裕, 佐藤 公信, 原 寛道
 単位数： 2.0 単位 開講時限等： 1 年後期金曜 4,5 限
 授業コード： T1P008001, T1P008002 講義室： 工 2-アトリエ (2-601)

科目区分

2008 年入学生： 専門必修 F10 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義・実習

[受入人数] 70 人

[受講対象] デザイン学科 1 年生

[授業概要] 生活の中にある工業製品を対象に、デザインに関する一連のプロセスを体験する。まず、具体的な製品のデザインを行い、その製品と人を結びつけるためのグラフィックのデザインを行い、その製品を引き立てる空間のデザインを行う。最終的にそれらを統合したプレゼンテーションを行う。なお、本授業は統合デザイン実習 II と連携して進める。

[目的・目標] 工業製品を取り巻く基本的な知識、メディアや空間の果たす役割、表示手法に関する基礎的能力などを習得しながら、自ら問題を見つけて解決するための想像力と創造力を高める。

[授業計画・授業内容]

1. 製品コンセプトの構築
2. デザインアイデア展開
3. デザインチューニング
4. 中間プレゼンテーション
5. ロゴマークデザイン
6. 製品レダリング
7. 広告物デザイン
8. 中間プレゼンテーション
9. 空間配置計画
10. 展示空間デザイン
11. 模型・パース制作
12. 中間プレゼンテーション
13. プレゼンテーション資料・モックアップ制作
14. チュートリアル
15. 最終プレゼンテーション

[キーワード] 製品デザイン, グラフィックデザイン, 空間デザイン

[教科書・参考書] 別途指示

[評価方法・基準] 課題提出、出席回数

[関連科目] 統合デザイン実習 II(p. デザ 6 T1P007001)

[履修要件] 必修

T1P009001

授業科目名： デザイン論 II
 科目英訳名： Theory of design II
 担当教員： 釜池 光夫, 未定
 単位数： 2.0 単位 開講時限等： 1 年後期火曜 2 限
 授業コード： T1P009001 講義室： 工 2 号棟 202 教室

科目区分

2008 年入学生: 専門必修 F10 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 75 人

[受講対象] デザイン学科 1 年生

[授業概要] 製品デザインに関する人・もの・環境と産業の枠組みの基礎概念を学ぶ

[目的・目標] 製品デザインに関わる枠組み・歴史・プロセス・産業の諸要件の涵養を目指し、産業製品の計画に関わる人、製品、環境に関わる諸事象の調査開発に関する知識について理解を深める。

[授業計画・授業内容]

1. はじめに：製品デザインの定義・講義ガイダンス
2. 製品デザイン事例（家具・家電）
3. 製品デザイン事例（交通機関・道具）
4. 製品デザインの歴史（変動系）
5. 製品デザインの歴史（製品進化論）
6. 生活とデザイン（レポート）
7. 製品開発のプロセス（コンセプト）
8. 製品開発のプロセス（アイデア・モデリング）
9. 製品開発のプロセス（プロダクション）
10. インタフェース（ハード）
11. インタフェース（ソフト）
12. 問題解決学・システム
13. 産業と製品デザイン
14. 製品デザインにおける課題と展望
15. 最終試験

[キーワード] 製品、R&D、動具、システム、製品進化、生活複雑変動系、ソリューション

[教科書・参考書] 授業開始時に指示する

[評価方法・基準] 出席（毎回出席をチェックする）：30 %；レポート課題：30 %；試験：40 %

[関連科目] デザイン論 I、デザイン科学 I、デザイン科学 II

[履修要件] 必修

T1P010001

授業科目名：デザイン科学 I

科目英訳名：Design Science I

担当教員：青木 弘行、岩永 光一

単位数：2.0 単位

開講時限等：1 年後期水曜 3 限

授業コード：T1P010001

講義室：工 2 号棟 202 教室

科目区分

2008 年入学生: 専門必修 F10 (T1P:デザイン学科)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 75 人

[受講対象] デザイン学科 1 年生

[授業概要] デザインによって生起する人間行動の特性とその観察等の方法、デザインへの応用とについて論述する。また、デザインされた人工物の物理特性や材料生産技術、感性的な特性等について論述する。

[目的・目標] デザインの対象である人工物と人間行動との関係に対する基本的知識を学習する。人間行動に関しては、観察、計測、分析、評価法等の理解とデザインへの応用能力を育成する。人工物に関しては、人工物の物理的特性、生産方法、感性評価等に関する理解とデザインへの応用能力を育成することを目的とする。

[授業計画・授業内容]

1. デザインの対象としての生活環境の捉え方。人間行動システムと生活環境システム

2. 人間行動の捉え方。ユーザ特性とユーザ要求
3. 人間行動の観察・計測・評価
4. 人間行動のタイプ化とデザイン条件
5. 人間行動の特性とスペーシング
6. 人体寸法と設計寸法
7. 人間行動と設計条件
8. デザインの対象としての人工物の捉え方。固有特性と属性
9. 人工物の形態と製造条件
10. 人工物の経済的特性
11. 人工物と環境問題
12. 人工物の感性・感覚的特性
13. 人工物の物理・化学的特性
14. 先端技術と人工物開発
15. テスト

[キーワード] 人間行動、人工物、観察、計測、感覚的特性、先端技術

[教科書・参考書] 授業時に指示する。

[評価方法・基準] 出席数、レポートの提出の内容、テストによる授業の理解度

[関連科目] デザイン論 I、デザイン論 II、デザイン科学 II

[履修要件] 必修

[備考] 平成 15 年度まで開講されていた「材料計画論 [T1F008001]」の読み替え科目である。

T1Y016006

授業科目名：造形演習 科目英訳名：Design Aesthetics(Lab.) 担当教員：田内 隆利 単位数：2.0 単位 授業コード：T1Y016006	開講時限等：1 年前期火曜 5 限 講義室：創造工学センター
--	-----------------------------------

科目区分

2008 年入学生：専門基礎必修 E10 (T1KC:建築学科 (先進科学), T1N:建築学科, T1P:デザイン学科), 専門基礎選択必修 E20 (T1E:都市環境システム学科, T1K4:メディカルシステム工学科 (先進科学), T1L:メディカルシステム工学科, T1T:画像科学科, T1U:情報画像学科), 専門基礎選択 E30 (T1KD:機械工学科 (先進科学), T1Q:機械工学科, T1S:ナノサイエンス学科), 専門選択科目 F36 (T1M:共生応用化学科, T1M1:共生応用化学科生体関連コース, T1M2:共生応用化学科応用化学コース, T1M3:共生応用化学科環境調和コース)

[授業の方法] 演習

[目的・目標] 工学的手段による問題意識の結果が形となって現われる場合、よいまとまりを意識して形造りを行うか、意識せずに形造りを行うかでは結果に大きな開きが生じる。よいまとまりを示す形とは何かを演習を通じて修得する。具体的には、演習計画に示す各項目を各担当教員の専門領域の立場から課題を設定し、演習を行う。

[授業計画・授業内容]

1. 全体ガイダンスおよびクラス分け
2. 第 1 課題：「鉛筆による手の描写」
3. 第 1 課題の演習
4. 第 1 課題の演習・講評
5. 第 2 課題：「三面図に基づいた立体物の描写」
6. 第 2 課題の演習・講評
7. 第 3 課題：「紙サンダルの制作」
8. 第 3 課題の演習：調査結果に基づく制作物のプレゼンテーション
9. 第 3 課題の演習：制作

10. 第 3 課題の発表
11. 第 4 課題：「ゴム動力車の制作」
12. 第 4 課題の演習：調査結果に基づく制作物のプレゼンテーション
13. 第 4 課題の演習：制作
14. 第 4 課題の発表
15. 展示会

[評価方法・基準]

[備考] 創造工学センターはサンダルやヒールの高い靴厳禁。

T1Y016004

授業科目名：造形演習 科目英訳名：Design Aesthetics(Lab.) 担当教員：福川 裕一 単位数：2.0 単位 授業コード：T1Y016004	開講時限等：1 年前期火曜 5 限 講義室：工 15 号棟 110 教室
--	---

科目区分

2008 年入学生：専門基礎必修 E10 (T1KC:建築学科 (先進科学), T1N:建築学科, T1P:デザイン学科), 専門基礎選択必修 E20 (T1E:都市環境システム学科, T1K4:メディカルシステム工学科 (先進科学), T1L:メディカルシステム工学科, T1T:画像科学科, T1U:情報画像学科), 専門基礎選択 E30 (T1KD:機械工学科 (先進科学), T1Q:機械工学科, T1S:ナノサイエンス学科), 専門選択科目 F36 (T1M:共生応用化学科, T1M1:共生応用化学科生体関連コース, T1M2:共生応用化学科応用化学コース, T1M3:共生応用化学科環境調和コース)

[授業の方法] 演習

[目的・目標] 工学的手段による問題意識の結果が形となって現われる場合、よいまとまりを意識して形造りを行うか、意識せずに形造りを行うかでは結果に大きな開きが生じる。よいまとまりを示す形とは何かを演習を通じて修得する。具体的には、演習計画に示す各項目を各担当教員の専門領域の立場から課題を設定し、演習を行う。

[授業計画・授業内容]

[評価方法・基準]

T1Y016001

授業科目名：造形演習 科目英訳名：Design Aesthetics(Lab.) 担当教員：植田 憲 単位数：2.0 単位 授業コード：T1Y016001	開講時限等：1 年前期火曜 5 限 講義室：工 2 号棟 201 教室
---	--

科目区分

2008 年入学生：専門基礎必修 E10 (T1KC:建築学科 (先進科学), T1N:建築学科, T1P:デザイン学科), 専門基礎選択必修 E20 (T1E:都市環境システム学科, T1K4:メディカルシステム工学科 (先進科学), T1L:メディカルシステム工学科, T1T:画像科学科, T1U:情報画像学科), 専門基礎選択 E30 (T1KD:機械工学科 (先進科学), T1Q:機械工学科, T1S:ナノサイエンス学科), 専門選択科目 F36 (T1M:共生応用化学科, T1M1:共生応用化学科生体関連コース, T1M2:共生応用化学科応用化学コース, T1M3:共生応用化学科環境調和コース)

[授業の方法] 演習

[授業概要] 「工学」とは「ものづくり」であり、「ものづくり」とは「造形」である。「造形演習」は、いくつかの「造形」に関する課題を通して、「工学=ものづくり」に対する関心を鼓舞し、学生のひとりひとりが有する造形の資質を覚醒する。

[目的・目標] 本演習の具体的な目的は、以下のようである。(1)「学び取る」姿勢を培う。(2)多面的な観察能力を養う。(3)多様な解の存在を認識する。(4)プレゼンテーション能力を涵養する。「造形演習」の 4 つの課題のひとつひとつには、限られた時間のなかで精一杯にチャレンジし、満足するまで成し遂げることが求められている。頭脳と手とを連動させ、「手を動かし、汗をかき、想いをめぐらし、創る」まさに「手汗想創」を体感する。

[授業計画・授業内容]

1. 全体ガイダンスおよびクラス分け
2. 第 1 課題：「鉛筆による精密描写」
3. 第 1 課題の演習
4. 第 1 課題の講評
5. 第 2 課題：「展開図に基づいた立体物の描写」
6. 第 2 課題の演習
7. 第 2 課題の講評
8. 中間発表会
9. 第 3 課題：「卓上ランプシェードの制作」
10. 第 3 課題の演習
11. 第 3 課題の講評
12. 第 4 課題：「飛行体の造形」
13. 第 4 課題の演習
14. 第 4 課題の講評
15. 展示会

[キーワード] 観察・思索，デザイン，手汗想創，プレゼンテーション

[教科書・参考書] 特にありません。

[評価方法・基準] 成績評価は、出席状況、作品・プレゼンテーションの状況に基づいて行います。

[関連科目] 特にありません。

[履修要件] 特にありません。

[備考] 特にありません。

T1Y016005

授業科目名：造形演習

科目英訳名：Design Aesthetics(Lab.)

担当教員：UEDA EDILSON SHINDI

単位数：2.0 単位

開講時限等：1 年前期火曜 5 限

授業コード：T1Y016005

講義室：工 17 号棟 213 教室

科目区分

2008 年入学生：専門基礎必修 E10 (T1KC:建築学科 (先進科学), T1N:建築学科, T1P:デザイン学科), 専門基礎選択必修 E20 (T1E:都市環境システム学科, T1K4:メディカルシステム工学科 (先進科学), T1L:メディカルシステム工学科, T1T:画像科学科, T1U:情報画像学科), 専門基礎選択 E30 (T1KD:機械工学科 (先進科学), T1Q:機械工学科, T1S:ナノサイエンス学科), 専門選択科目 F36 (T1M:共生応用化学科, T1M1:共生応用化学科生体関連コース, T1M2:共生応用化学科応用化学コース, T1M3:共生応用化学科環境調和コース)

[授業の方法] 演習

[目的・目標] 工学的手段による問題意識の結果が形となって現われる場合、よいまとまりを意識して形造りを行うか、意識せずに形造りを行うかでは結果に大きな開きが生じる。よいまとまりを示す形とは何かを演習を通じて修得する。具体的には、演習計画に示す各項目を各担当教員の専門領域の立場から課題を設定し、演習を行う。

[授業計画・授業内容]

1. 全体ガイダンスおよびクラス分け
2. 第 1 課題：「鉛筆による精密描写」
3. 第 1 課題の演習
4. 第 1 課題の講評
5. 第 2 課題：「展開図に基づいた立体物の描写」
6. 第 2 課題の演習
7. 第 2 課題の講評
8. 中間発表会

9. 第3課題:「水」「火」「土」「風」のテーマから一つを選び、自由に形を創ろう
10. 第3課題の演習
11. 第3課題の講評
12. 第4課題:「水」「火」「土」「風」のテーマから一つを選び、新しいデザインコンセプトを作成する
13. 第4課題の演習
14. 第4課題の講評
15. 展示会

[キーワード] 観察・思索, デザイン, 手汗想創, プレゼンテーション

[教科書・参考書] 特にありません。

[評価方法・基準] 成績評価は、出席状況、作品・プレゼンテーションの状況に基づいて行います。

[関連科目] 特にありません。

[履修要件] 特にありません。

[備考] 特にありません。

T1Y016003

授業科目名: 造形演習 科目英訳名: Design Aesthetics(Lab.) 担当教員: 玉垣 庸一 単位数: 2.0 単位 授業コード: T1Y016003	開講時限等: 1 年前期火曜 5 限 講義室: 工 2-アトリエ (2-601)
---	---

科目区分

2008 年入学生: 専門基礎必修 E10 (T1KC:建築学科 (先進科学), T1N:建築学科, T1P:デザイン学科), 専門基礎選択必修 E20 (T1E:都市環境システム学科, T1K4:メディカルシステム工学科 (先進科学), T1L:メディカルシステム工学科, T1T:画像科学科, T1U:情報画像学科), 専門基礎選択 E30 (T1KD:機械工学科 (先進科学), T1Q:機械工学科, T1S:ナノサイエンス学科), 専門選択科目 F36 (T1M:共生応用化学科, T1M1:共生応用化学科生体関連コース, T1M2:共生応用化学科応用化学コース, T1M3:共生応用化学科環境調和コース)

[授業の方法] 演習

[目的・目標] 工学的手段による問題意識の結果が形となって現われる場合、よいまとまりを意識して形造りを行うか、意識せずに形造りを行うかでは結果に大きな開きが生じる。よいまとまりを示す形とは何かを演習を通じて修得する。具体的には、演習計画に示す各項目を各担当教員の専門領域の立場から課題を設定し、演習を行う。

[授業計画・授業内容]

[評価方法・基準]